

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長野県長野市大字幅下 692-2
管理機関名 長野県教育委員会
代表者名 教育長 原山隆一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年4月1日(契約締結日)～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 長野県長野高等学校

学校長名 宮本 隆

類型 グローカル型

3 研究開発名

SDG s 未来都市を創造するグローバルファシリテーターの育成

4 研究開発概要

「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」を育成する探究を学校設定教科「NGP」、学校設定科目「英語キャリアプロジェクト」及び総合的な探究の時間で行う。国際会議を開催し地方創生に繋がる政策を提言し、コンソーシアムとの協働により発信する。学校だけでは完結しない、新しい学びの体系を研究開発する。

5 教育課程の特例の活用の有無

有

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

①運営指導委員会：地域との協働事業関連授業参観、取組の概要説明、意見交換及び指導

○第1回 令和元年7月17日(水) (於：長野高校)

○第2回 令和2年2月4日(火) (於：長野高校)

②コンソーシアム担当者会議：事業計画及び役割分担、進捗状況の確認、取組への評価及び意見交換、次年度へ向けての改善点の共有

○第1回 令和元年6月19日(水) (於：長野高校)

○第2回 令和元年10月10日(木) (於：長野高校)

○第3回 令和2年2月20日(木) (於：長野高校)

③「探究的な学び」研究会：令和元年9月3日(火) 会場：長野県総合教育センター

長野県において、本年度入学生より新学習指導要領に先行して実施の「総合的な探究の時間」における学びを深めるため、全公立高校の担当者が一堂に会し、相互の取組や効果的な実践方法について情報共有・意見交換。

④「SH(スーパーハイスクール)フォーラム」：令和元年11月15日(金)

会場：長野市生涯学習センター 18校参加

SGH, SSH, 地域との協働事業の各指定校に加え、学校づくりに意欲的な高校も参加して、深い学びの実践に係る情報共有・意見交換を行うとともに、個別最適化や教科横断型等、これから重要となる学びについて理解

⑤海外交流アドバイザーの配置

恵崎良太郎（松本空港国際化特別顧問）1名を配置。

⑥地域協働学習実施支援員の配置

岩破幸平（東京海上日動火災保険株式会社長野中央支社 広域・グローバル支援担当）

中村真紀子（元長野放送報道部及び広報部）計2名を配置。

⑦グローバル講師・ALTの加配 960万円

ALT 1名に加え、実績のある特に優秀な外国人講師を県独自に1名雇用し、配置。

(2) 実績の説明

①管理機関による管理方法

(ア) 県教育委員会における担当者

県教育委員会所管課（学びの改革支援課）に担当指導主事を置き、指定校の取組に係る手続等を一括管理する。同課内に置く他の文部科学省事業指定校を担当する指導主事との間で情報共有及び連携を日常的に行う。また、指定校事業担当者に対して、事業全般に係る恒常的な指導・助言を行う。

(イ) 運営指導委員会の構成（敬称略）

委員：清水 唯一朗（慶応義塾大学総合政策部教授）

中村 正行（信州大学工学部教授）

中川 美紀（ソフトインテリジェンス塾代表・ビジネスアナリスト）

久世 良三（株式会社サンクゼール代表取締役社長）

山口 利幸（元長野県教育長）

②地域において構成するコンソーシアム

機関名	機関の代表者
長野市	加藤 久雄
長野県企画振興部総合政策課	小野沢 弘夫
長野県教育委員会	原山 隆一
信州大学教育学部	永松 裕希
信州大学工学部	天野 良彦
長野県立大学	金田一 真澄
東京海上日動火災保険株式会社長野中央支社	橋本 有司
長野青年会議所	山崎 年起
金鷄会（同窓会）	桃林 聖一

③カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置

(ア) 海外交流アドバイザーの配置

恵崎良太郎（松本空港国際化特別顧問）1名を配置。

(イ) 地域協働学習実施支援員の配置

岩破幸平（東京海上日動火災保険株式会社長野中央支社 広域・グローバル支援担当）

中村真紀子（元長野放送報道部及び広報部）計2名を配置。

④管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組

(ア) 運営指導委員会の設置及び開催

研究開発関連授業の参観、取組の概要説明、意見交換及び指導。

(イ) SH(スーパーハイスクール)フォーラムの開催

文部科学省事業指定校の高等学校長を中心に構成する会議。分野を越えて、各パイロット校がその研究開発の成果を報告・共有し、カリキュラム研究開発の水準をさらに高めるとともに、事業内容の向上を図る。

(ウ) 「探究的な学び」研究会の開催

全県立高等学校の担当者が集まり、指定校の研究開発について学び、自校における学びの充実に資する。

(エ) 高校生学びのフォーラム長野の開催：県内高校生の課題研究を支援

(オ) 指定校取組の紹介

指定校の研究開発成果、運営指導委員会の内容について広報し、本事業について県民へ周知。

(カ) 地域協働学習実施支援員の配置

県の「カリキュラム編成支援事業」により、地域協働学習実施支援員を配置。予算措置 100,680 円。

⑤高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況

(ア) コンソーシアム構成機関

東京海上日動火災保険株式会社長野中央支社（令和元年度内連携協定締結予定）

(イ) コンソーシアム外の連携先

京都大学（平成 31 年 1 月 31 日付け）、立命館アジア太平洋大学（平成 31 年 3 月 31 日付け）

⑥事業終了後の自走を見据えた取組について

(ア) 地域協働学習実施支援員の配置の継続等、コンソーシアムの継続に係る予算措置

事業終了後も地域協働学習実施支援員を配置する等、本事業の骨格を維持するため予算措置を行う予定。

(イ) 高校生学びのフォーラム長野の継続

「探求的な学び」に係る大会を実施し、県内高校生の課題研究の充実に資する。

(ウ) 「探求的な学び」研究会

全県立高等学校の学習指導担当者が集まり、指定校の研究開発の軌跡について学び、各校における「探求的な学び」の充実に資する研修会として開催。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目 ※①課題探究②③課題研究	実施日程											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
① 「長野のグローバル戦略を語る」	←											→
② 「SDGs から見た長野のグローバル戦略」	←											→
③ 「グローバルアカデミア」	←											→
④ 課題探究中間発表会（1年）											↔	
⑤ 課題研究発表会（2年）							↔					
⑥ グローバルアカデミア発表会・国際会議		↔		↔								
⑦ 「英語キャリアプロジェクトⅠ」	←											→
⑧ 「英語キャリアプロジェクトⅡ」	←											→
⑨ 台湾研修								↔				
⑩ 台湾研修のための連携会議				↔								
⑪ 米国リーダー研修												↔
⑫ 米国リーダー研修 事前事後プログラム	←											→
⑬ Programming for Project				↔								
⑭ 成果の普及	←											→
⑮ SGH 研究報告書												↔
⑯ SGH 評価委員会											↔	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・学校だけでは完結しない、全生徒対象の新しい学びの体系を研究開発する。「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」の3つのスキルを育成するために、学校設定教科・科目、校外フィールドワーク、外部人材活用、遠隔授業、海外研修、教科横断的な学びを日常の授業の中に位置付ける。

- ・地域課題研究に係る全体テーマ「コンソーシアム・連携組織との協働による、長野県が抱える地域課題の解決と、『SDGs 未来都市』計画の実現に向けた効果的な戦略の研究」を踏まえ、以下の i) ～iv) の4つを重点に、長野県が抱える課題解決に資するテーマを班ごとに設定する。

- i) 誰もが学べる環境の創出 ii) 地域内経済循環の促進
- iii) 快適な健康長寿の「まち」「むら」づくりの推進 iv) エネルギー自立・分散型モデル地域の形成

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・学校設定教科「NGP」(NAGANO GLOCAL PROJECT)を設定し、学校設定科目「英語キャリアプロジェクトⅠ、Ⅱ」及び「総合的な探究の時間」で、1・2年生全員が充実した課題探究を行うと共に、新しい学びを実現するカリキュラムを開発、実践する。
- ・3年次は、総合的な学習の時間「グローバル・アカデミア」選択生を中心に国際会議を開催して、国内外の関係者と生徒が広く議論を交わし、地方創生に繋げる政策提言を行う。さらに、その提言をコンソーシアムとともに広く発信し、3年間における学びの集大成とする。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組 **以下の下線部を参照**

(ア) 課題研究「長野のグローバル戦略を探る」(総合的な探究の時間) 1学年全員 1単位

◆授業内容

- i) オリエンテーション「NGPとしての学び」4/8(月)、4/13(土)
- ii) ディスカッション講座 4/23(火)、24(水) 長野県立大学学生参加
- iii) リサーチとテーマ設定 5/28(火)、29(水)
- iv) 課題研究班編成 6/8(土)
- v) インタビュー実践準備 7/2(火)、3(水)、10(水)
- vi) インタビュー実践 7/22(月)
 - a. コンソーシアム等から招聘した講師と対話する分散会、b. 「NAGANOのグローバル戦略」を考える全体会、c. HR単位での報告会、d. 課題設定のためのディスカッション及び関連教科からのフィードバックの4部構成で実施
- vii) フィールドワークⅠ事前学習 9/10(火)・11(水)、10/15(火)・16(水)、11/12(火)・13(水)
- viii) フィールドワークⅠ 12/10(火)
- ix) フィールドワークⅠまとめ 12/17(火)・18(水)、1/20(月)・21(火)・22(水)
- x) 課題研究中間発表会 2/4(火)・5(水)
 - フィールドワークを通じて発見した地域課題について発表 テーマに関係する教科による助言
- xi) 課題研究論文作成 2/5(水)～3/6(水)

(イ) 課題研究「SDGsから見た長野のグローバル戦略」(総合的な学習の時間) 2学年全員 1単位

◆授業内容

- i) オリエンテーション「今年度のNGP活動」4/9(火)
- ii) SDGs ワークショップ 4/16(火)・17(水) (JICA 竹内岳氏との協働によるプログラム作成)
- iii) テーマ設定、班編成 5/7(火)・8(水)
- iv) フィールドワーク相談会、スキル養成講座 5/21(火)・22(水) 東京海上日動等から講師派遣
 - 外部講師を招聘し、説得力ある資料作成のためのデータ活用講座を実施
- v) フィールドワークⅡ事前学習 6/4(火)・5(水)、6/25(火)・26(水)
- vi) フィールドワークⅡ 7/22(月) 長野市・長野県他地元企業など
首都圏フィールドワーク 7/22(月) 東京近郊 東京海上日動他
 - フィールドワークについてはテーマに関連する教科で必要に応じ助言
- vii) フィールドワークⅡまとめ 7/23(火)・24(水)
 - 研究報告個人レポート作成 7/27(土)～8/23(金)
- viii) 発表会準備 9/3(火)・4(水)、10/1(火)・2(水)、8(火)・9(水)
- ix) 課題研究発表会 10/10(木) 地元企業・コンソーシアム
 - フィールドワークについて、テーマに関連する教科で必要に応じ助言

- x) 課題研究発表会総括・海外インタビュー準備 11/5(火)・11/6(水)
- xi) 海外インタビュー 11/19(火) 東京海上日動・海外交流アドバイザーによる協力
- xii) 1年間の振り返り 12/7(土)～

NAGANO SDGs PROJECT ; SDGs 宣言作成 12/10(火)・11(水)

研究論文作成 12/24(火)・25(水), 1/14(火)・15(水), 2/12(水), 18(火)・19(水)

研究論文においては、必要に応じて各教科で助言

- (ウ) 課題研究「グローバルアカデミア」(総合的な学習の時間) 3学年選択者 33名 1単位

◆授業内容

- i) ポスター発表準備 4/15(月)・5/20(月)
- ii) 校内ポスター発表 5/21(火)・22(水)・23(木)・24(金) 図書委員との連携
- iii) 一般公開ポスター発表「グローバルアカデミア」 5/25(土) (下記⑥参照)
- iv) 「G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」での発表(6/15(土) 軽井沢町で開催)
代表生徒2名が、海洋プラスチックについての研究を各国の閣僚に対し英語で発表。マスコミにも取り上げられ、反響を呼んだ。
- v) 文化祭における来場保護者・地域住民への発表 7/6(土)・7/7(日)
1教室を会場に選択生全員によるポスタープレゼン実施。併せて、G20 軽井沢での発表生徒による再現プレゼン、及びプラスチック問題に係る来場者との意見交換。
- vi) 英文エッセイ作成 7月～9月

- (エ) 課題探究中間発表会 1学年全員(全56班による発表、討論、外部講師による講評)

- ◆日程 2/4(火) 3・4時限(10:35～12:25) 3・4組, 5・6時限(13:30～15:20) 5・6組
2/5(水) 3・4時限(10:45～12:45) 1・2組, 5・6時限(13:50～15:50) 7組

- (オ) 課題研究発表会(プレSDGs 国際会議) 1・2学年全員(発表は2年生全56班)

◆日程 10/10(木)

- i) 12:50-14:05 分散会 56班がプレゼンを行い、1・2年生が全員参加して討論を行った。
- ii) 14:25-16:05 全体会 一次・二次審査により選出された3班がプレゼンを行い、外部講師による審査で最優秀賞を決定。講師による講評を実施

- (カ) 一般公開ポスター発表「グローバルアカデミア」(プレSDGs 国際会議) 3年選択生 33名による発表
海外留学生・外国人講師への英語によるポスタープレゼン及びディスカッション。英語での発表、質疑応答の仕方について実践的に学んだ。来年度6月に実施する「SDGs 国際会議」のプレ発表としての位置付け。

- (キ) 「英語キャリアプロジェクトI」 NGP 学校設定科目* 1学年全員 1単位

*情報と英語の教科横断的授業による、ICT 基礎スキル及び英語4技能の向上

◆具体的な取組

- i) ICT 機器を活用した自己紹介プレゼンテーション
- ii) NAGANO 英語プレゼン発表会 9/28(土) 長野県立大学 後援 社会科と連携
長野県立大学生・上田高校他4校がゲスト発表・信州大学・清泉女学院他講師11名
AFS 留学生による発表 社会科学、自然科学と多岐に渡る教科横断的な内容を発表
- iii) APU 留学生との遠隔インタビュー(プレSDGs 国際会議) 12/9(月)・11(水)
連携協定のある立命館アジア太平洋大学留学生とのWEB インタビュー 地歴公民科と連携
- iv) パーラメンタリー・ディベートクラスマッチ 3/4(水)

- (ク) 「英語キャリアプロジェクトII」 NGP 学校設定科目* 2学年全員 1単位

*情報と英語の教科横断的授業による、ICT を活用した遠隔地との協働及び場面に応じた英語運用能力育成

◆具体的な取組

- i) コミュニケーション・トレーニング「My Favorite Presentation」 ICT 学習
- ii) SDGs プレゼンテーション(台湾での学校交流へ向けて)「総合的な学習の時間」との連携
- iii) SDGs 国際会議 in Kaohsiung (台湾)

- iv) パーラメンタリー・ディベート, エッセイライティング
- (ケ) 台湾研修 SDGs 国際会議 in Kaohsiung, 海外インタビュー等 2学年全員 11/17(日)~21(木)
- (コ) 台湾研修のための連携交渉 7/29(月)・30(火)に実施
- (サ) 米国リーダー研修 3/14(土)~21(土) 米国訪問 6泊8日
- (シ) 米国リーダー研修 事前事後研修プログラム 10月より開始 1年選抜者40名対象

11/8(金) ウェリントン市長室 David Bromell 氏によるワークショップ

長野県庁プロジェクト SHIP との共同開催 善光寺大本願で実施 地歴公民科と連携

11/22(金) 中田北斗氏によるワークショップ 飯山高校・JICA 及び地歴公民科と連携

- (ス) Programming for Project(ワークショップ) 7/12(金)

信州大学教育学部次世代型学び研究開発センター 森下孟准教授 1年生希望者15名 職員3名が参加

- (セ) 報告書 3月に提出

④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・SGH 事業で開発した「英語プロジェクト」は、英語科を中心とする指導体制が整っているため、これをベースに「英語キャリアプロジェクト」を発展させる。また、本校の教員だけでは対応が難しい情報の専門分野については、「総合的な探究の時間」において外部講師を活用して補う。

- ・「総合的な探究の時間」については、SGH 事業推進室を中心に学校全体が関わる体制ができているため、コンソーシアムと協働し、学びをより深いものにしていく。

- ・学校のカリキュラムに合わせて、必要なコンソーシアム担当者会議を開催する。

⑤ 学校全体の研究開発体制(教師の役割, それを支援する体制について)

- ・新たに組織する「グローバル教育推進室」を中心に、各教科及び各係と緊密に連携した全校指導体制のもとで事業を推進する。

- ・1・2年生は、全員を対象に「総合的な探究の時間」「長野のグローバル戦略を探る」「SDGs から見た長野のグローバル戦略」においてグループによる課題研究を、3年生は、選抜者を対象に「グローバルアカデミア」において課題研究の完成を目指す。

- ・1・2年生によるグループ研究にあたっては、学年担当の「グローバル教育推進係」が、生徒の研究テーマに応じて班担当の教員を割り振る(校長・教頭を含む全教員)。

- ・全教員が、自身の専門性を生かし、生徒の設定する研究テーマに応じて適宜指導・助言を行う。

- ・「グローバル教育推進室長」は、海外交流アドバイザー・地域協働学習実施支援員と協力し、コンソーシアムとの連絡・外部講師の招聘・予算の適切な執行等に努め、事業を円滑に推進する。そのため、授業持ち時間を考慮する。

⑥ カリキュラム開発等専門家, 海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の校内における役割・位置付け

(ア) 海外交流アドバイザー

○恵崎良太郎(松本空港国際化特別顧問)

- ・SDGs 国際会議 in Taiwan のコーディネーター(学校交流, 海外インタビュー)

- ・長野県が交流協定を結んでいる各国からの留学生受入

(イ) 地域協働学習実施支援員

○岩破幸平(東京海上日動火災保険株式会社)

- ・地域課題設定アドバイザー, 広域フィールドワークコーディネーター

○中村真紀子(元長野放送報道部及び広報部)

- ・フィールドワークにおける校内外の情報集約及び調整

- ・外部講師の招聘, 調整, 学校のHPによる地域へ・社会への発信

⑦ 学校長の下で, 研究開発の進捗管理を行い, 定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ, 計画・方法を改善していく仕組み

- ・「グローバル教育推進室」及び学年課題担当者会・各班担当者会からなる事業研究委員会は、事業評価委員会より評価・助言を受ける。

- ・管理機関との連絡を密にし、恒常的に指導・助言及び必要な支援を受ける。

- ・管理機関が設ける運営指導委員会を年2回開催し、研究開発の進捗状況全体について専門的な見地から指導・助言を受け、必要な改善点を明確化する。

- ・年2回開催する運営指導委員会の事業全体に対する指摘を踏まえ、年2回実施する事業評価委員会及び年3回実施するコンソーシアム担当者会議において、個別の企画について検討を行い、具体的な修正・改善を加える。

⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組

生徒自らが、的確な課題を設定し、その解決につながる実効性ある政策を提言する力を身に付け、将来「長野県 SDGs 未来都市計画」を実現して魅力ある長野を創造する人材となるよう、共通認識のもとで学びの場を提供するとともに、計画的・継続的な助言・支援を行う。

⑨ 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援

- ・ 7/17(水), 2/4(火)の2回, 運営指導委員会を開催。委員5名による指導・助言。
- ・ 6/19(水), 10/10(木), 2/20(木)の3回, コンソーシアム担当者会議を開催。担当者9名による助言。

⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組

(ア) 課題解決型学習の基礎を体験的に学ぶ, 総合的な探究の時間「長野のグローバル戦略を探る」

(イ) SDGs と地域課題の解決を目指す, 総合的な探究の時間「SDGs から見た長野のグローバル戦略」

- ・ フィールドワークやリサーチを通じて考察を深め, グローバルな視座から地域社会の解決を目指した提言を, 課題研究発表会や台湾研修等において行った。
- ・ SDGs 学習メニューを豊富に持つ東京海上日動火災等と協働して, 年度当初, SDGs の基本的な理解と SDGs の意義を学ぶ授業を実践することで, SDGs について学んだことを, ローカルな課題と結びつけることができた。
- ・ 東京海上日動火災等コンソーシアムに係る外部講師を計画的・継続的に活用することで, グループ毎のグローバルな課題設定に繋げることができた。
- ・ 問いの検証を重ね, 発信活動を伴う4つのタスク(国内フィールドワーク, 課題研究発表会, 台湾研修での高校生会議, 海外インタビュー)を踏まえた課題に練り上げた。
- ・ 課題設定が高度になることに伴い, 問題の理解力, 情報収集力及び発信力, 分析力, クラウド活用力を高める方法をグループの中で見つけ出す必要性が発生するため, 必然的にグループ内での協働が主体的に行われた。

(ウ) グローバルなスケールでキャリアデザインを始める科目「英語キャリアプロジェクトI」

- ・ 自分の「興味関心」を英語で明確に表現することで, グローバルな視野を持って地域で活躍するビジョン作りを始めることができた。
- ・ 地域に公開する「英語プレゼンテーション大会」では, 地域協働推進連携校をはじめとする高校生・大学生・留学生・社会人等もゲストとして招聘し, 参加者が英語によるプレゼンテーション及び質疑を行うことで, 多様な価値観に触れる経験をするとともに, 地域のグローバルな学びに貢献した。
- ・ グループでのプレスト, ディスカッション講座等, 総合的な探究の時間「長野のグローバル戦略を探る」と連携し, 教育効果を高めた。
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)と連携の上, 多様な文化的背景を持った留学生へのインタビューを ICT 機器も活用しながら行い, グローバルな視野の獲得に資することができた。

(エ) 海外での国際会議で社会課題解決を目指す科目「英語キャリアプロジェクトII」

- ・ SDGs と地域課題の解決を目指す総合的な探究の時間「SDGs から見た長野のグローバル戦略」とテーマを共有し台湾高雄市での国際会議ファシリテーションの準備を行う。
- ・ 班ごとのテーマに沿い, 英語によって発表・議論を行いことができるように取り組んだ。
- ・ ALT と英語科教員の TT により, 英語力, 議論力, ファシリテーション力, ICT スキルをプロジェクト型学習で体験的に学んだ。
- ・ 1日8時間の台湾人パートナーとの英語交流, 海外でのインタビュー等, 台湾研修旅行での交流体験から, 「海外に向けて発信していく自分像」を確立するグローバルな視点でのキャリア発達を促すことができた。
- ・ 課題設定, ICT 活用, チームビルディングとグループファシリテーション, 発信スキル, 発信マインドの育成等, 総合的な探究の時間「SDGs から見た長野のグローバル戦略」と連携し, 教育効果を高めた。
- ・ 国内外を問わず, 自らの探究プロセスを示せるように, 2年間のキャリアを英文でのエッセイにまとめる取組を通じて, 海外への進学や留学に向けての意識を高めた。

⑪ 成果の普及方法・実績

(ア) 発表会の公開: グローバルアカデミア発表会, NAGANO 英語プレゼン発表会, 課題研究発表会 (プレ SDGs 国際会議) 分散会・全体会, 課題探究中間発表会, 米国リーダー研修報告会

(イ) 職員研修会: 職員プレスト研修 7/24(水)

SDGs 職員研修会 9/18(水) 講師: 小林 達矢 (長野県 NPO 法人)

校内職員プロジェクトチームによる探究的な学びの充実に係る研究会 11月~1月

(ウ) 実践報告

i) 文部科学省委託事業: 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット 10/24(木)

長嶋 幸恵 長野県教育委員会指導主事・腰原 智達 教頭・小宮山 潤 教諭による報告

ii) SDGs ファンクション 学生カンファレンス 11/23(土)

台湾研修旅行報告 (小宮山 潤 教諭) (主催: 公営機社団法人 長野青年会議所)

iii) 長野県教育委員会月刊誌『教育指導時報 10月号』掲載「G20 高校生がんばっています」

iv) NBS 長野放送「信州・学びの改革～主体性・協働性・創造性を育む」 1/24(金)放映

v) abn 長野朝日放送「君とみつけた, 最高の夏～長野高校 120周年の歩み～」 8/16(金)放映

vi) SBC 信越放送「我に金鶏の光あり～長野高校 120周年～」 12/22(日)放映

◆HP, SNS の更新: NGP ブログによる情報発信, インスタグラムの活用

◆学校訪問受入: 山梨県教育庁及び甲府第一高校ほか6校

◆「G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」学生との交流事業における発表 6/15(土) 軽井沢プリンスホテル 生徒2名 引率教員2名 (宮本 隆 校長・小宮山 潤 教諭)
NHK イブニング信州 他民放地方局4社でニュースとして放映, 信濃毎日新聞・毎日新聞・中日新聞
内閣府オフィシャルマガジン We are Tomodachi 2019 秋冬号等で記事掲載

8 目標の進捗状況, 成果, 評価

(1) 進捗状況 以下の仮説に基づき, 概ね目標達成へ向けて順調に推移している。

- | |
|--|
| <p>仮説1 高校生が地域創生に向けた効果的な協働を通じて主体的に活動することで, 長野県が「SDGs 未来都市・学びの県」にふさわしいグローバル人材育成の場となる。</p> <p>仮説2 PBL 型の英語教育と教科横断型の学びを通じて, グローカル視点のキャリア観を段階的に育成することで, グローカルファシリテーターとしての資質が養われる。</p> <p>仮説3 コンソーシアムと協働し, レイヤー的思考, ブレイクスルー発想, 国際的な対話力を養成するカリキュラムを開発することで, 生徒の探究的な学びの質が高まり, 実効性の高い政策提言を可能にする。</p> |
|--|

- ・「インタビュー実践」「課題研究中間発表会」では, コンソーシアムと協働して, 地域で活躍する多様な講師を招聘。それぞれの課題を探究化するために, 1年次から2年次へのテーマ継続へ向けたプログラムが進行中である。(1学年「総合的な探究の時間」)
- ・コンソーシアムと協働して, 研究の質を高めるプログラムを開発。データ使用法などに改善が見られた。フィールドワークも, 協働的に実施できた。研修旅行時の海外インタビューも含めて, 発信機会が増えている。(2学年「総合的な学習の時間」)
- ・コンソーシアムと協働して, 地域の大学生・高校生が協働的に英語を学ぶ機会を創出した。また WEB 会議を活用して, 協定している大学と連携し海外からの留学生との対話するプログラムを確立しつつある。(1学年「英語キャリアプロジェクトI」)
- ・台湾でSDG 国際会議 in 高雄を実施。高雄市内7校と同時進行で実施。帰国後, 成果を発表した。(2学年「英語キャリアプロジェクトII」)
- ・目標「(ア) 長野県や長野市が持つ強みを理解し, 地方創生への興味・関心, 意欲を養う。」「(イ) 各教科の学習に取り組むことにより, SDGs と地域課題について深く理解する。」「(ウ) レイヤー的思考, ブレイクスルー発想, 国際的な対話力を育成する。」及び「(エ) 質の高い探究学習を可能にする情報収集能力・活用能力・発信力を身に付ける。」の実現へ向けて順調に進んでいる。

(2) 成果及び評価

今年度外部との協働により開発・改善した主なプログラム

- | |
|---|
| <p>1年 ディスカッション講座, インタビュー実践, NAGANO 英語プレゼン発表会, APU 留学生との遠隔インタビュー, 米国リーダー研修プログラム</p> <p>2年 SDGs ワークショップ, FW 相談会, スキル養成講座, フィールドワーク II (鬼無里村でのカンファレンス等のオリジナルプログラム), 首都圏フィールドワーク, SDGs 国際会議 in 高雄, 海外インタビュー, SDGs 協働ファンクション・学生カンファレンス, NAGANO SDGs PROJECT でのSDGs 宣言, 職員研修 SDGs カードゲーム地方創生版</p> |
|---|

- ① SGHの成果を発展的に継承。1, 2年生のプログラムを中心に、主体性のさらなる向上と、探究学習の一層の充実に資する形に再構築した。
- ・2年間の探究学習の集大成と位置付けた台湾研修旅行では、帰国後の生徒へのアンケート調査において、「主体性」「探究性」を示す要素が軒並み上昇し、4つの項目では過去5年間で最高値となった。
 - ・企画評価会議協力者からの指摘事項「SGHの捉え直し」等を踏まえた取組である。
- ② コンソーシアムなどの連携先や地域関連機関との協働を行う体制が整い、長野高校の持つリソースを活かした地域の学びの探究化・グローバル化に貢献するプログラムを実施。
- ・「NAGANO 英語プレゼン発表会」に、公立高校5校の代表者・大学生6名がゲストスピーカーとして参加。事後アンケートには、参加者の90%以上が「有意義」と回答。
 - ・「学生コンファレンス」参加者アンケートでは、参加者全員が「有意義」と回答。
 - ・企画評価会議協力者からの指摘事項「教員スタッフが地域との協働を積極的に取り組める体制づくり」等を踏まえた取組である。
- ③ 個別最適化した探究学習プログラムへの移行を鑑み、3年次選択生による公開ポスター発表会「グローバルアカデミア」を開催。「海洋プラゴミの研究」はG20 軽井沢へも繋がり、その成果を広く発信した。生徒の「社会性」を高めるうえでも有効と考えられる。(3学年「グローバルアカデミア」)
- ・3年選択者は、昨年まで15人前後で推移してきたが、今年は33人に増加し、15のプロジェクトを発表。
 - ・G20 軽井沢で発表した研究チームが文化祭で行った発表会では、約30人の様々な年齢層の地域ゲストがディスカッションに参加。レジ袋有料化をテーマに世代を超えた意見交換が繰り広げられた。
 - ・企画評価会議協力者からの指摘事項「3年次のカリキュラムへの懸念」等を踏まえた取組である。
- ④ AFS 留学生のプロジェクト参加や、APU 留学生のWEBインタビューなど、国際的な対話力を養う機会が増えたことで、今後、主体性のさらなる向上が期待できる。
- ・企画評価会議協力者からの指摘事項「多文化共生」「留学生の活用」を踏まえた取組である。
- ⑤ 課題研究を含む NGP のプログラムが、情報収集力やデータを活用した表現力の育成に効果があったことを生徒が自覚している。
- ・アンケートでは、約83%の生徒が、NGPプログラムが情報収集、表現力に効果があったと回答。
 - ・企画評価会議協力者からの指摘事項「探究型学習の成果を取り入れた指導」を踏まえた取組である。

9 次年度以降の課題及び改善点（最終年度に開発完了予定）

(1) 個別最適化された学びの充実

今年度、3年選択生「グローバルアカデミア」の取組を踏まえ、次年度から2年生の発表会の時期を変更するなど、それぞれの生徒が興味・関心に応じた個別研究に主体的に取り組める体制づくりを行う。

(2) ICTを活用した国際会議による生徒の主体性涵養

今年度1年生で実施したWEB会議システムと、2年生の台湾研修等におけるファシリテーション育成のプログラムを融合させた国際会議を次年度より実施

(3) 3年選択生の探究スキルの活用

3年間の探究的な学びの成果を全校生徒に伝えるとともに、自身のキャリア形成に生かす効果的な方法について開発を進める。

(4) 発信力のさらなる向上

今年度は、HPに加えてSNSの活用も試みている。次年度もより一層有効な発信方法を研究していく。

(5) 教科横断的な取組の促進

次年度より、探究的な学びを核にした教科横断的な実践をさらに増やす。

【担当者】

担当課	長野県教育委員会学びの改革支援課	TEL	026-235-7435
氏名	長嶋幸恵	FAX	026-235-7495
職名	指導主事	e-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp

<添付資料>目標設定シート